

娘介護者における役割間葛藤と調整・交渉プロセスの検討

児玉寛子¹⁾*

1) 青森県立保健大学

Key Words ①娘介護者 ②役割間葛藤 ③家族規範 ④就労

I. はじめに

近年、高齢者介護においては、これまで主に介護の担い手とされてきた「嫁」に代わり、実子、とりわけ「娘」を主介護者とする割合が高まっている。主介護者の続柄の推移をみると、平成 19 年度国民生活基礎調査以降、「子ども（＝主に娘）」が「子の配偶者（＝主に嫁）」を上回っている。また親から子どもへの介護期待に関する調査においても娘による介護を望む傾向にシフトし、親側の意識変化も指摘されている。

「娘」が実親の介護を担うとき、一方では、娘以外の他の立場や役割と向き合わなければならない場面が想定される。つまり「娘介護者」は、娘としての立場以外に「妻・嫁・母親・きょうだい」としての立場や役割を有することが考えられ、また就労している場合には、職場内での立場や役割も有するだろう。娘介護者は、これら複数の立場や役割に対応しながら介護を遂行していくことになるが、複数の役割をどのように調整し、また役割間に葛藤が生じた場合、どのような方法で対処しているのかという点が本研究の問題意識である。複数の役割を有しながらも介護を継続する娘介護者が直面する課題、また課題に対して、どのような調整方法や交渉手段で対処しているのかを明らかにする必要性は高いと考える。

II. 目的

娘介護者が有する複数の役割に着目して、介護の中で生じる課題と役割間葛藤、および対処法としての調整・交渉方法について検討する。

III. 研究方法

調査対象者は実親を介護した経験のある娘、または実親の介護を現に行っている娘介護者である。調査は半構造化面接法によるインタビューとし、平成 31 年 3 月に実施した。一人につき 60 分程度で本人からの了解を得て IC レコーダーに録音した。分析は音声データを逐語データに変換のち、質的データ分析方法に基づいて、娘が介護を引き受けるに至った時点から現在(介護経験者には介護終了)までの時間軸に沿ってデータを整理した。その中で各局面において生じた課題と複数の役割間での葛藤の有無、対処・調整方法に着目して検討した。

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail:h_kodama @auhw.ac.jp

IV. 結果と考察

1. 対象者の概要

調査対象者は、介護経験者が2名、介護継続中が3名の計5名である。年齢は70歳代2名、60歳代1名、50歳代2名、介護形態は同居介護が1名、通い介護が2名、通い介護から同居介護へ移行したものが2名であった。就労状況は正規職員として就労中が2名、他3名は介護当初（もしくは介護中）に勤務経験はあるが、その後は無職となっていた。

2. 結果及び考察

対象者が介護を引き受けるに至った経緯では、介護以前から実親と同居していた1名を除き、他4名は結婚前から実親を介護することは想定しておらず、介護の引受けが想定外だったことを語っていた。しかし実際に介護を引き受けた理由としては、実親と実姉や義姉との関係が介護以前から良好ではなかったため「(介護を任せるのは)無理だと思った」という語りや、「自分と実親は相性が合うから」などが挙げられていた。

娘介護者が抱える課題を役割別に整理すると、妻役割では、「実親を介護することに夫は理解を示している」と語る一方で「(夫に)さびしい思いをさせない」など、家庭内での妻役割と介護との狭間に置かれている様子が推察された。これは「娘の夫は傍観者あるいは承諾者の立場でしか介護に関わっていない場合があり、娘自身が交渉において夫に積極的な介護分担を求めようとはしない」という先行研究の知見に従うものと考えられた。母役割については、対象者全員ともに子どもは独立していたため、子どもは信頼できる情緒的、情動的サポートの提供者として語られていた。きょうだいとの関係では、義姉や義妹に多少の介護協力を期待しつつも、「実兄(または実弟)を困らせるかもしれないから」という考えのもと、あえて協力を要請していない様子が語られた。またきょうだいとの関係を保つために、看取りや遺産整理など今後予測される事態への事前準備を娘介護者がイニシアティブを取り、調整していると語る娘介護者もいた。仕事との両立については、勤務先従業員の男女比によって、生じる課題や対処スタイルが変化する様子が見られた。また就労は気分転換と語る娘介護者もあり、既に報告されているような就労を心理的休息の機会と捉えている様子も推察された。

なお今回の対象者は、全員が子育てを終了している世代であったため、母役割との間に生じる課題は語られなかった。今後は、娘介護者の年齢層を若年世代にも拡大して詳細な分析を行う必要があると考える。

VI. 文献

- ・上山千恵子、田場真理、守本とも子『認知症高齢者を介護する娘介護者の体験』奈良学園大学紀要、第5巻、pp67-79, 2016.
- ・森本浩志、古田信夫、河野光慧ほか『認知症高齢者の家族介護者の役割間葛藤の記述的検討』広島国際大学心理科学部紀要、第2巻第1号、pp15-28, 2014.
- ・平山 亮『働きながら親を介護するということ』生活経済政策、223号、pp18-22, 2015.
- ・春日キスヨ『介護問題の社会学』岩波書店、2001.

VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

- ・2019年度青森県保健医療福祉研究発表会で発表予定